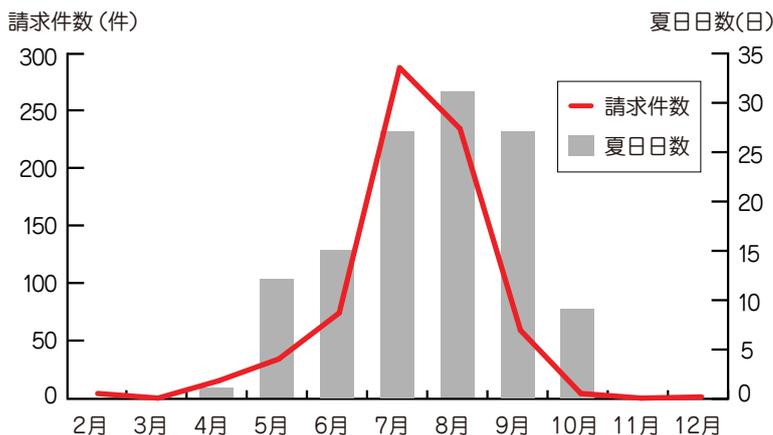


☀️ 梅雨明けこそ注意!

STOP 熱中症



気温と熱中症についての調査を行ったところ、最高気温が25度を超える夏を観測し始める5月から、熱中症の請求件数が増えはじめ、7月がピークとなりました。

熱中症は、夏だけの事故ではありません。春や初夏から発生しています。ワンちゃんの体もまだ暑さに慣れていないため、要注意です。

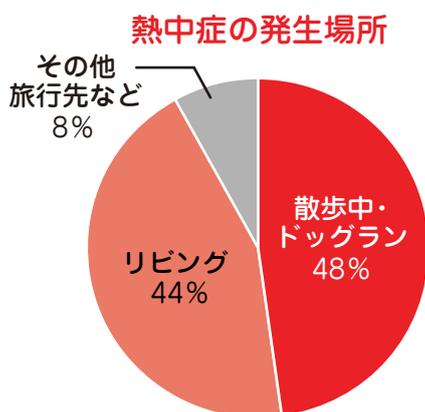
※アニコム損保ニュースリリース 4月19日より

☀️ なぜワンちゃんは熱中症になりやすいの?

- ①ワンちゃんは、全身で汗をかくことができません。
ワンちゃんは全身に汗腺がなく、体温を下げるには浅く速い呼吸(パンティング)に頼るしかないので、人間よりも体温調節が難しいのです。
- ②ワンちゃんは、毛皮を着ています。
全身を被毛に覆われているワンちゃんは、夏の暑さには弱い犬種が多いです。
- ③ワンちゃんは、地面に近いところを歩きます。
体高が低いワンちゃんは、日中の地面からの放射熱の影響を受けやすいです。特にアスファルトは要注意です。



☀️ どんな状況で多いの?



熱中症の発生場所を調査したところ、「散歩中・ドッグラン」「リビング」での発生が多く見られました。

「散歩中・ドッグラン」では、「真夏日だった」「炎天下を走り回っていた」など、暑さ対策が不十分だったために、熱中症が発生しています。

「リビング」では、ワンちゃんだけの留守番中よりも、家族も在宅している時に多く発生していました。

成犬の適温は15~21度といわれるため、飼い主が快適に感じていても、愛犬にとっては体調を崩しかねない室温である場合もあり、室温管理に注意が必要になります。また、窓を閉め切った車内も予想以上に高温となるため、車中での留守番は絶対に避けるようにしましょう。

注意したい状況

- エアコンのない部屋や車などの暑い環境下に長い時間いる状況(留守番時など)
- 暑さが厳しい時期の屋外で長時間、直射日光を浴びる状況
- 高温で換気不十分なケージなどに閉じ込めた状態
- 気温や湿度が高い場所で運動をしたとき
- 照り返しの強い舗装道路上での散歩時
- 水分補給が十分でないとき

熱中症は、ご家族の注意で防げる事故です。外出が増えるこれからの季節、温度管理・湿度管理に気をつけて、ワンちゃんの熱中症を防ぎましょう。